



戦没者のめい福を祈り

春季戦没者追悼式

笠松町春季戦没者追悼式が4月25日、笠松・松枝・下羽栗の各地域の会場でしめやかに行われました。

式には戦没者の遺族の皆さんや関係者の方々が多数参列され、町長が「先の大戦の終結から七十余年の月日が流れ、戦後に生まれた世代が大半を占める今、悲惨な戦争の記憶は薄れつつありますが、どれだけ月日が流れても、現在の平和と繁栄が、尊い犠牲とご遺族の皆さまのご労苦の上に築かれていることを決して忘れることなく、未来へしっかりと語り継いでいかなければなりません。

住民の皆様生命と財産を守るため、災害に強いまちの構築をめざし、昨年度には災害時に有力な情報伝達手段となる防災行政無線屋外子局の更新・増設を行い、今後は更に防災備蓄の強化など環境整備を進め、災害に強いまちづくりに向け取り組んでまいります。」と式辞を述べました。

続いて岐阜県知事代理、田中県議会議員、古田町議会議長の追悼の言葉のあと、参列者が献花を行い、戦没者のめい福を祈り、平和への誓いを新たにしました。



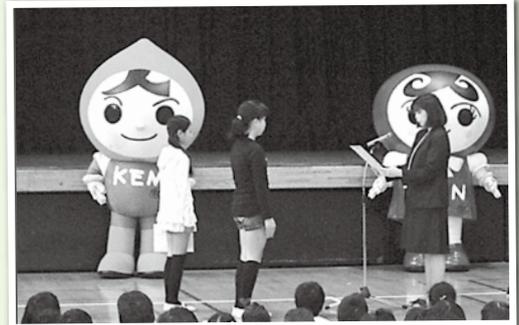
献花する遺族の皆さん

笠松小学校が人権推進校に指定されました

岐阜地方法務局と岐阜人権擁護委員連合会から、笠松小学校が人権推進校に指定されました。4月27日、笠松小学校で指定式が行われ、児童を代表して、くすのき副委員長の浅井佳音さんが指定書を受け取り、くすのき委員長の安田萌音さんが活動への抱負を述べました。

笠松小学校では、人権の花運動、車椅子バスケットボール体験などの活動を行い、相手を思いやる心を育んだり、様々な人権問題への理解を深めます。

相手の立場になって思いやり



人権推進校指定書の授与

「春」をテーマに文化フェスタ

かさまつの文化・芸術・
学習の成果を一堂に



ステージ発表の様子

5月20・21日、中央公民館で文化協会による“かさまつ文化フェスタ2017”が「春」をテーマに開催されました。

文化フェスタは、町文化協会に登録しているクラブやサークルの会員が日ごろの活動の成果を披露する場です。

作品展示部門では、油彩絵・水彩画・水墨画・写真・書・短歌・俳句・生け花などの作品を15団体と、個人9人が展示。

ステージ発表部門では、日本舞踊・民謡・大正琴・詩吟・コーラスなどの19団体が発表。

展示・発表合わせて約300人の会員が町民の人生を充実させることを目的とし、披露しました。

観覧された皆さんは、展示作品の素晴らしい出来栄えに感心し、ステージ発表では、会場が一体となり大いに盛り上がりました。